



トヨタAA型乗用車誕生75周年

トヨタAA型乗用車

今から75年前の1936年、トヨタAA型乗用車は世界的に見ても時代をリードしているクルマの1台でした。それはAA型が手本としたクライスラー社のエアフロー*1がセダンのデザインを刷新したクルマだったからです。エアフローが採用した、乗り心地(後席)と走行性能を画期的に向上させるシャシーの基本設計はその後のFR*2セダンの標準となりました。

その内容は、それまで後車軸真上にあった後席をそこより前に位置させるために、エンジン搭載位置を前車軸上まで前進させたこと。これに伴い、ボディのシルエットが変わり、それまで奥まった位置にあったフロントグリルが前に出て、垂直だったボディ後部はなだらかなスロープになりました。

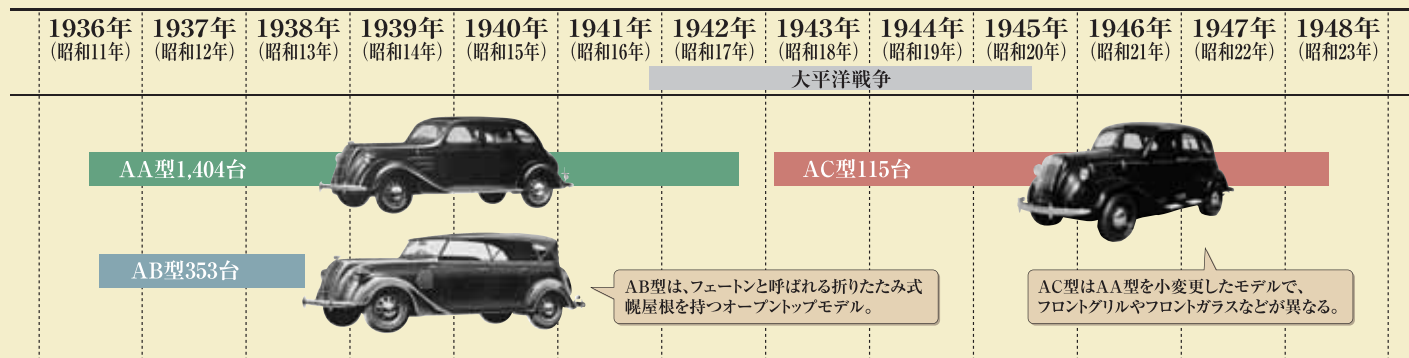
豊田喜一郎がAA型の開発を始めたとき、日本はフォードとシボレーに席捲されていました。喜一郎は、AA型の外観をフォードやシボレーのように毎年変更することはできないため、時代を

先取りしたデザインを採用したいと思っていました。そこへ登場したエアフローがまさにそういったクルマだったのです。さっそく1台購入し研究したところ、スタイルだけでなくシャシーレイアウトを含めボディ構造の面でも進歩的で合理的な設計を採用していることがわかり、AA型の設計に採り入れることにしました。

AA型は3,350円で発売されました。これはフォードの3,700円、シボレーの3,810円に対抗して政策的につけられたものでした。AA型のカタログを見ると一番の特徴は「燃費」。当時の雑誌によると、実燃費10.0~12.7km/lで、ユーザーに好評だったそうです。2、3番目の特徴はそれぞれ「快適な乗り心地」、「堅牢なボディ」で、これらはともにエアフローを手本にして得られたものでした。

*1...本館2階に展示 *2...フロントエンジン・リアドライブ(エンジンを前に置き、後輪を駆動)

生産期間と台数



現存AA型見つける! 2008年5月、ロシアのモスクワ郊外にて



オリジナルでないもの:フロントグリルとその周囲のパネル、ヘッドランプ、バンパー、ワイパーの取り付け位置と数、スモールランプの後付けなど



オリジナルでないもの:ベルトイントランク(AC型に付いた例はあったが、形状が異なる)、ボディに直付けされたテールランプ(オリジナルは独立タイプ)、トランク下部のボディパネル、リアバンパーが欠品



フロントフェンダー、ランニングボードは作り変えられており、ホイールとホイールキャップはノンオリジナル。



左フロントドアトリム無し、左リアドアガラス破損。

The 75th Anniversary of Toyoda Model AA [山田耕二]

生産～発売～活躍～最後の奉公



AA型乗用車の生産ライン



AA型乗用車見学会(第1回販売店協議会)



「スピード」1936(昭和11)年10月号に掲載された広告



上野公園にて



皇族に購入されたAB型



懸賞の商品にされたAA型



1939(昭和14)年 衣ヶ原飛行場でのスナップ
(衣ヶ原飛行場は現在のトヨタ自動車元町工場の場所にあった)

戦後 大学の自動車部で最後の奉公



青山学院大学

「モーターファン誌」1955年12月号に掲載された『大学オートショー』より

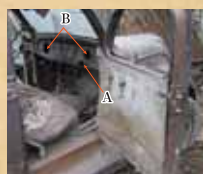


法政大学



◀左ハンドルに改造。シフトレバー形状が違う。メーター類は変更されている。

Aがオリジナルのステアリングシャフト貫通部。Bは後から開けた穴で目的不明。メーター類は変更されている。



エンジンはA型でも、その改良版のB型でもなく、旧式のSV6気筒エンジンが載せられている。車を使い続けるために、何らかの理由で修理できなくなった元のエンジンに代えて身近にあったエンジンを載せたものと思われる。



現存AA型のその後

ローマンミュージアムで公開



2010年7月、オランダのデンハーグ市郊外に開館したローマンミュージアム。約250台を展示。AA型は最小限の照明で展示されている。右上はローマンコレクションオーナーのエバート・V.N.ローマン氏。



現存するAA型は現時点ではここに紹介した1台だけ、当館に展示されているのは復元車です。法政大学自動車部のAB型は1974年にトヨタ自動車に寄贈され、現在トヨタ博物館で所蔵しています。もう1台現存する個人蔵のAB型が日本自動車博物館(石川県小松市)に展示されています。